

# 平成24年度 公益財団法人大阪市博物館協会の外部評価

## 自然史博物館の運営状況(総括)

## 【自己評価シート1】

### 館・所の使命

大阪の「自然の情報拠点」として自然史博物館の機能を発展させる  
 社会教育施設として、人々の知的好奇心を刺激し、見つめる学習の援助を行う  
 地域との連携を促進してより広範な市民との交流に努める  
 他の機関との連携を進め、ノウハウの交流に努める  
 魅力ある効率的な博物館づくりをめざす

### 指定管理期間の重点目標

自主企画展の工夫、集客力のある巡回展の誘致、広報活動の強化等による特別展入場者の増加  
 館内でのイベント開催、植物園との連携、来館者・学校団体へのサービス提供、ミュージアムショップの充実等による館の魅力向上  
 多面的で系統的な自然教育の推進、友の会・サークル活動の強化、ボランティア養成等による市民への学習支援と人材の育成  
 市民参加型プロジェクトの推進、地域や自然関連団体、研究機関との連携、行政的課題への対応等による博物館の発信力強化  
 外部資金の獲得による研究活動および各種事業の充実

### 運営状況の指標

	平成21年度(参考)	平成22年度	平成23年度	平成24年度
職員総数(7/1現在)		26	24	24
市派遣職員		14	12	11
市OB職員		4	4	4
固有職員		0	0	0
契約職員		6	8	9
嘱託職員		2	0	0
収蔵品数(3月末現在)	142万8416点(35,649点)	146万6654点(38,238点)	148万8948点(22,294点)	151万5358点(26,410点)
購入	(0)	(0)	(2)	(0)
寄託	0(0)	0(0)	0(0)	1式(1,068点)
寄付・交換・採集	(35,649点)	(38,238点)	(22,294点)	(25,342点)
博物館事業参加者総数	323,426	355,596	402,342	476,309
常設展 展示替回数(決算)	特別陳列 2回	特別陳列 1回	特別陳列、ミニ展示など 4回	特別陳列、ミニ展示など 4回
入館者数	192,424	167,869	207,751	237,180
特別展 回数(決算)	3回	2回	3回(「恐竜の成長」含む)	3回(「恐竜の成長」含む)
入館者数	105,440	152,366	151,289	200,119
その他事業参加者数 ※	25,562	35,361	43,302	39,010
収入総額(千円)	—	344,630	331,834	326,711
市からの委託費	—	311,697	302,306	292,234
自己収入・その他	—	32,933	29,528	34,477
支出総額(千円)	—	332,167	324,182	323,419
管理費	—	284,809	275,125	283,578
事業費・その他	—	47,358	49,057	39,841
収支差額(千円)	—	12,463	7,652	3,292

### 《備考》 ※ 「その他事業」の主な事業名

自然史フェスティバル、バードフェスティバル、各種普及教育事業など

### ※収蔵品のカウント方法

登録標本は購入・寄贈・採集などを個別にカウントしていない。よって、標本総数の年度ごとの増減はわかるが、購入・寄贈・交換・採集については、その年度の増減だけをカッコ内に記入した。寄託は昨年度までは0件、今年度初めて寄託がありそれを記入している。

## 自然史博物館の特徴

## 【自己評価シート2】

### 館の強みをどのように認識しているか

- 公立の自然史系博物館のトップランナーとしてのブランド力・信頼性(西日本自然史系博物館ネットワークの事務局など)
- 多数の模式標本を含む国内屈指の自然史コレクション(総数148万8948点)
- 調査研究事業に裏打ちされた多彩な博物館活動(市民との共同調査に基づく特別展開催や多様な普及教育活動など)
- 強力な支援組織の存在:友の会(会員数1700名)、NPO、教員との連携(高校生物教育研究会、TMなど)
- ICTを使った情報発信、機動力ある情報発信(HP、ブログ、ツイッターなど)

### 館の弱みをどのように認識しているか

- 施設設備(本館(昭和49年建築)の老朽化)
- 本館常設展示の老朽化(第1から第3展示室は26年(一部は38年)経過)。特に、進化理論・分子生物学、地球環境・恐竜分野
- 広報部門の予算が少ないことに起因する、(マスコミなどを通じた)情報発信力不足

### 環境(館を取り巻く諸条件)の変化をどのように認識しているか

- 科学研究費補助金など外部資金獲得の増加、経常経費における研究費を含む事業費全般の減少
- NPO大阪自然史センター、博物館を取り巻く市民団体(サークルなど)との協働を強める必要がある

### 指定管理期間の成果

- 利用料金制の下での特別展開催(大化石展とハチ展の成功、巡回展の開催と常設展を含むセット料金など料金設定の弾力化)
- 外部評価を活かした特別展開催の工夫・成功(職域を越えての内部評価の実施とPDCAサイクルの確立)
- 国の補助金により、展示室内照明のスポット照明をLED化

### 今後の課題として考えていること

- 施設の老朽化対策(展示施設のリニューアル、設備および建築構造物)に必要な予算の確保
- 任期付き職員、特に学芸員の正職員化
- 教育普及事業スタッフの強化